

## 新渡戸稲造の人格教育に関することば

湊 晶子編

「学問の第一の目的は人の心をリベライズするといふこと、エマンシペイトすることである」  
『内観外望』「大学の使命」

1. Personality・人格形成・・・Vertical Relation 垂直的關係

- ① 「西洋人はパーソナリティを重んずる。パーソン即ち人格である。日本では人格といふ言葉は極めて新しい。私共が書生の時分には、人格という言葉はなかった。パーソンという字は詳細に調べると、メンという意味とは違って『人たる』という字である。格といっても資格というような意味は毛頭ない」 『西洋の事情と思想』
- ② 「人はどこか動じないところ、譲れぬという断固とした信念がなければならない。人格神との関係性、対話性の中に人格は形成される」
- ③ 「Personality (人格) のないところには Responsibility(責任)は生じない」(一高生に)

2. Sociality・他者との関係・・・Horizontal Relation 水平的關係

- ④ 「知ること (to know) よりも実行すること (to do)」「実行することよりも存在すること (to be)」が大切である。『随想集「人格形成か行為業績か(ビーイングかドゥイングか)」』
- ⑤ 「人間は大きな心で人と和して行かねばならない。絶対を楯にとり、理屈を一理も曲げずに、他人をことごとく小人視して、我独り澄めりという心がけでは、世の中は少しもよくなる。どれほど高い理想を抱こうとも、実行に当っては譲れるだけ譲り、折れるだけ折れて行くのが大切である。」

3. 女子人格教育の必要性

- ⑥ 「所謂良妻賢母主義は、人間を一種の型にはめ込むようなものである。日本の女子教育は、女を妻か、母か、娘かいずれかにしてもひとり立ちの人間らしくない男の付属品のごとく見ている。一個の人間として立派に出来上がった婦人(人格)ならば、妻としては良妻、母としては賢母である」 『婦人に勧めて』
- ⑦ 「婦人の方でも特に学才の在る人は、せめて独立自営するためになる位の教育を受けておかなければ、万一の不幸に打ち克つことは出来ずまい。又其の父兄も其の娘に保険料でもかける考えで、進んで高等教育を授けて貰いたい。結婚の衣装に大金を投ずるだけが親としての責任ではなく、衣装以上の頭を持参させるようにしたいものである。」  
(同上)
- ⑧ 「婦人が偉くなると国が衰えるなどというのは意気地のない男の言うことで、男女を織物に例えれば男子は経糸、女子は緯糸である。経糸が弱くても緯糸が弱くても織物は完全とは言われませぬ」 (1918年東京女子大学開校式式辞)
- ⑨ 入学する者を悉く基督信者にするとか、教会に入ることを強制するとかの考えはないけれども、心もちだけは基督の心持にしたい」 『新女界』「キリスト教主義大学」
- ⑩ 「婦人をして真の位置を獲得せしむるために百年間の準備が必要である」 『人生雑感』